

JASCT

ニューズレター

第13巻第4号

平成6年(1994年)12月

発行人: 松本清一

印刷所: 綯文社

平成7年度 研修会および学会の予告

1. 第24回 性治療研修会

期 日 4月16日(日)

場 所 日本赤十字看護大学講堂(東京・渋谷)

テーマ 心身医学と性

2. 第12回 世界性科学学会

期 日 8月12日(土)～8月16日(水)

場 所 バシフィコ横浜(神奈川・横浜)

学会長 松本清一(JASCT会長)

※ 関連記事が第3, 4面にあります。

3. 第15回 日本性科学学会

期 日 9月17日(日)

場 所 埼玉県県民健康センター大講堂 2F (埼玉・浦和)

学会長 矢追良正(独協医科大学越谷病院産婦人科教授)

※ 関連記事が第4面にあります。

Vol. 13

No.
4

JASCT 事務局

〒107 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3F

長谷クリニック内

TEL 03(3475)1780 FAX 03(3475)1789

お人形から人へ

神尾記念病院 堀 一子
JASCTカウンセリング室

K子さんが、御主人に添われて来院された時、まさに、深窓の令嬢が現れたかのような様子でした。二人は半年前に結婚したのですが、K子さんが性行為を極端に嫌がるので、性生活がありませんでした。K子さん25才、K氏32才でした。K子さんは、新婚初夜以来ずっと、頭からすっぽりかぶった毛布の端を、両手でつかんで寝ていたのです。事態が発覚し、母親に、親不孝と泣かれ、なじられ、K子さんは、死んだ気になって、性交を試みようと思ったのですが、体に触られるだけでも嫌だったのです。「みんなは正常だから、わかってくれないんです」と、K子さんは、やり場のない気持ちを語るのです。

K氏は、誠実を絵にかいたような、勉強が大好きな学者でした。K子さんは、「この人は、（セックスが）できない人かもしれない」と、期待をよせて結婚したのでした。しかし、それは全く期待はずれだったのです。

半年間、K氏なりに、アプローチを試みました。頬やおでこへのキスなら大丈夫です。しかし、抱こうとすると拒絶されます。そのくせ、両手で抱き上げると「目が回るよー」と、はしゃいでいます。まるで幼稚園児を相手にしているようです。ところが、会社でのK子さんは、専門職を有能にこなす女性です。

K子さんは、両親にとって、ずっと自慢の子供でした。かわいくて、勉強ができて、素直で、やさしい子でした。ところが、そのことを、今、K子さんは、「私はずっとお人形だった」と、思い始めています。服装、髪型、お化粧、お稽古事、学校、果てはお嬢さんまで、母親は、自分の好きなものを選んで、娘に与えました。そのくせ、思い通りにならない時は、かんしゃくを起こして人形をたたきつける子供のように、K子さんをたたきつけてきました。

洋服はいつも母親と一緒に買いにいきました。一人で買ってきた物が母親の気に入らないと、母親が取り替えにいったこともありました。会社に着ていく服も、母親が決めてくれました。たまに自分で選ぶと、センスが悪いといって着替えさせられます。押し切って出かけると、帰宅してからも文句を言われます。そして結婚したのですが、お人形はセックスをしません。

K子さんは、ずっと人形でしたから、怒りたいときも、感情をぐっと抑えてきました。一方、K氏は感情を露にして怒ることがあります。K子さんは初め、そのことに生理的に反発を感じました。もっとも、結婚したとたん親に徹底して反抗的になったK子さんは、夫にも我儘のし放題でしたから、彼が我慢の限界を越えて怒るのも、本当は、わかるのです。

治療が始まった頃、K氏の悪口ばかり言っていたK子さんですが、やがて、「本当はいい人なんです」と、言うようになりました。K氏に、「もし、一生この病気が治らなかったらどうする?」と、気持ちを確かめようとすることも、ありました。

K氏は、勉強をしていることが多いのですが、隣の部屋で、K子さんがテレビを見ていると、集中できないことがあって、「一緒に見ましょう」といって、見ていることがあります。そんな時、彼女はただぼんやり見ているのですが、K氏は一生懸命見ている。スーパーの買い物も、K子さんは場当たり的に買ってきますが、K氏は、新聞の折込に丸をつけて、安くて良さそうな物を買ってきます。同じ様なことをしていても、K氏の方が何か楽しそうなのです。K子さんは、人形が人間の子供の遊びに興味を示すように、K氏の行動を観察するようになりました。またある時は、職場の男性が、「家で同じおかずが続いたら、箸をつけない」と言ったことに対して、「主人は、私が、一生懸命作った物には、絶対そんなひどいことは言わない」とも、言うのです。それは、良い成績の時だけは母との対比でもあったようです。

そしてある日、「良い人に当たったと思うんです」、「最近ほのぼのと、身近な人に思えるんです」と、語ったのです。間もなくKさん夫婦は、普通の夫婦になりました。

連載を終えるにあたって

さて、この回で、カウンセリング室からの、症例の連載は、一旦、終了させていただきます。ここまで症例を、紹介してきて、今、次のようなことを、感じています。それは、「私達は、どの時点においても、自分の人生を、よりよいものに変えていける可能性を持っている」ということ、今一つは、「夫婦というものは、それが、健康に機能しあうなら、最も治療的になりうる関係である」ということです。

短い期間でしたが、拙い報告に、付き合ってくださいまして、有り難うございました。

横浜で行なわれるWAS大会にぜひご出席を

山王病院理事 野末源一
JASCT常務理事

1) 第12回世界性科学学会について

第12回世界性科学学会 (12th World Congress of Sexology) は来年1995年に横浜のパシフィコ横浜会議センター (〒220 横浜市西区みなとみらい1-1-1 tel 045-221-2121) で行なわれます。会期は1995年8月12日(土)から8月16日(水)までです。丁度真夏の暑い時ですが、会員の皆様にはぜひ新しい都市横浜を見学されると同時に世界性科学学会 (World Association for Sexology 以下 WASと略します) と日本組織委員会との共催する学会に出席していただきたいと思います。

この学会では現在世界各地でどのようなトピックスが問題となっているか、又、カウンセリングをなさっている方には、現在世界各地でどのような事が行なわれているかという知識を各地に出向くことなく速やかにその場で得て、しかも議論をする機会に恵まれることとなります。公用語は英語ですが、シンポジウムや特別講演には、日本語への同時通訳をすることとなっています。

カウンセリングの分野では定評のあるニューヨーク、コーネル大学のDr. Hellen Singer Kaplanが“最近の性治療”という題で特別講演をされる予定で快諾されていましたが、残念なことに病気で手術を受けられ、横浜の学会には出席不可能であるとの通知を受けました。そのため、同じニューヨーク、マウント・サイナイ病院のDr. Raul Schiavi (スキアビイ) に現在交渉中です。

第12回世界性科学学会の会長は本会会長、松本清一先生であり、学会準備のため多忙な毎日をご過ごしておられます。本会としては、横浜の会議がぜひ、日本を含めて世界的な意味でのセクソロジー発展のための機会となるように願っており会をあげて協力をしてゆく態勢をとっています。

松本会長が決められたWAS大会のメインテーマは“Sexuality and Human Bonding” (セクシュアリティと人間の絆) であります。松本会長は「性科学はセクシュアリティの問題に関わる広汎な学際的科学です。人間の行動はしばしばセクシュアリティに関心を向けて起こされます。そして、そのような行動が素晴らしい人生の喜びをもたらすとともに、人々の融和と結びつきをうながすこととなります。今日の急速に変化する日本の社会では、人間学の基本とも言える性科学はもっとも重要な問題の一つですが、ことに本学会で主題として取り上げた(セクシュアリティと人間の絆)に関する論議は、人間関係や異文化間交流をうながしつつ、人間性のより深い理解をもたらすことになるでしょう」と述べておられます。

また、親睦行事として、歓迎レセプション(8月12日)、バンケット(ジャパン・ナイト)(8月15日)、日本庭園散策とお茶会(8月14日)等、予定されております。これらの親睦行事の委員長は本会理事の長池博子先生が担当されており、世界から集まったセクシュアリティに関心をもつ人々とJASCT会員との親睦の場として、誠に良い機会を提供することとなります。

2) WASについて

WAS (World Association for Sexology) が第1回の集を開いたのは、パリで1974年(昭和49年)のことでした。1995年に東京で開催するのですから、第1回目より数えて22年目ということになります。

WAS開催地

1974年	パリ	1976年	モントリオール	1978年	ローマ	1979年	メキシコ
1981年	エルサレム	1983年	ワシントン	1985年	ニューデリー	1987年	ハイデルベルグ
1989年	カラカス	1991年	アムステルダム	1993年	リオデジャネイロ	1995年	東京

第一回はパリで開かれましたが、その時の名称は第一回国際性医学会議 (First International Medical Sexology) というものでした。この名称は1978年のローマ大会まで使われましたが、より多くの分野の方々が、性の問題について話し合える場を持つためにWASとなったもので、新しい装いで、翌年、1979年にメキシコで集会が持たれました。主に各国の性科学会 (National Sexological Societies) を中心に成り立っており、法律的にも公益事業体として、スイスのジュネーブに登録されています。

現在、日本からのメンバーは本会 (JASCT) と日本性教育協会 (JASE) の二つだけです。WASの総会がすべての決定機関であり、各国の学会からそれぞれ代表が出席することになっています。総会では各国から19人の諮問委員会委員を選ぶことになっており、日本からは阿部輝夫先生 (順天堂大精神科助教授、本会理事) と波多野義郎先生 (筑波大保健学科教授、JASE理事) が選出されています。諮問委員会の中から投票で理事が選出され、理事会が構成されており、その理事会が総会から委託されて、常にWASの業務を行なうようになっています。

3) WASの目的

WASの目的とは、国際間の協力を密にして、性科学の研究や知識を向上させてゆくことにあります。もちろんこの中に

は性教育、性の健康や性の暴力についての知識を広め、その研究をすることも含まれています。このWASの活動の中で、特に指導的地位を占めていたのは、米国のジョンズ・ホプキンス大学医学心理学、小児学の教授で、同大学心理ホルモン研究所長でもあったジョン・マネ（John Money）博士です。同博士の著書は我が国に訳本もあり（「性の署名」朝山新一他訳、人文書院刊や「ラブ・アンド・ラブシックネス、愛と性の病理学」朝山春江、耿吉訳、人文書院刊、等）、多くの反響をもたらしました。アムステルダムで行なわれた第10回の学会では、ジョン・マネは、AIDSの流行で、性科学の研究に歯止めがかかるような雰囲気がアメリカで生じていると警鐘を鳴らしました。

一方、アジア諸国では、“性”がタブーであった国々、特に中国やシンガポール、香港では、新しいエネルギーでそれぞれ独自の発展に努力している状況が見られます。今後のWASの発展がどのような方向に向かって進んでゆくか、松本会長が主催される第12回世界性科学学会でその新しい胎動の芽生えを見たいものです。

第15回 日本性科学学会のご案内及び一般演題募集

第15回日本性科学学会総会ならびに学術講演会を下記のとおり開催致しますので、奮ってご参加下さりますようにご案内申し上げます。

（メインテーマ：「人間と性との関わりを見つめて」）

期 日：平成7年9月17日（日） 午前9時～午後6時

場 所：埼玉県県民健康センター 大講堂（2階） （浦和・埼玉県庁前 Tel:2444-24-2611）

学会長：矢 追 良 正（独協医科大学越谷病院産婦人科 教授）

参加費：一般 3,000円 会員・教職関係者：2,000円 学生：1,000円

挨拶 埼玉県産婦人科医会会長、日本母性保護産婦人科医会副会長 丸 山 正 義

特別講演 1. 世界性科学学会の日本開催を顧みて JASCT会長、日本家族計画協会理事長 松 本 清 一

特別講演 2. 生殖医学と倫理 大東文化大学法学部教授 中 谷 謹 子

学会長講演 女性の性意識と性機能の変化について 独協医科大学越谷病院産婦人科教授 矢 追 良 正

教育講演 1. 中高年婦人のQOL（性的側面） 広島大学保健学教授 石 井 と く

教育講演 2. AIDS時代における行動科学としての性教育 千葉大学教育学部教授 武 田 敏

シンポジウム『学校性教育の現状と未来』 モジュレーター 埼玉県産婦人科医会副会長 小 林 輝 夫

他 教育講演、シンポジウム、一般演題

《一般演題申込み》

締 切 ： 平成7年6月30日（金）

テ ー マ ： (1) 性教育 (2) 性の臨床 (3) 中高年の性 (4) その他

800字以内の講演要旨を和文タイプまたはワープロにて記載し、下記宛てお送り下さい。

学会連絡先及び一般演題送付先：〒343 埼玉県越谷市南越谷2-1-50

独協医科大学越谷病院産婦人科 第15回日本性科学学会事務局

（林 雅敏、榎本英夫、矢追正幸）TEL 0489-65-1111（内5313）

症例検討会のお知らせ ———— 奮って御参加下さい ————

日 時 平成7年1月23日（月） 午後6時～8時 場 所 JASCT事務局

テーマ ノンエレクト法について 阿 部 輝 夫 先生（順天堂浦安病院 精神科助教授）